

夕鶴オペラ 子供が合唱

出演歌手と練習を重ねる

墨田区の民衆文化センターホールで来月、岡伊玖磨作曲のオペラ「夕鶴」が上演される。「夕鶴」で出演するソプラノ歌手の船見里穂さんの指導のもと、児童合唱を担当する地元の幼稚園児や小学生らが、本書に向けて歌や演技の練習を重ねている。船見さんは「子供たちにとってはオペラは初体験。興味を持ってもらいながら、作品としてもしっかり仕上げていきたい」と話している。

墨田で来月上演



合唱の練習をする子供たち（墨田区で）

上演するのは、民話「鶴の恩返し」を戯曲化した木下順二の「夕鶴」を基に作曲されたオペラ。子供たちは、村の子供の役で出演し、「かじめかじめ」などを歌いながら、序盤、中盤、終盤と随所に登場する。

公演を主催するのは、船見さんが代表を務める「オフィス・アプローズ」（墨田区）で、2014年から地域住民が参加するオペラを公演している。昨年までは、地域の大人が毎年出演していたが、今年は児童合唱がある夕鶴を上演することになり、初めて子供の出演者を募集することにした。

出演するのは、幼稚園から小学5年までの男女19人

で、今年3月から、週1回のペースで練習を重ねてきた。今月7日に墨田区内で行われた練習には、指揮者の汐澤安彦さんも参加。汐

澤さんが「もっと元気よく、大きな声で」と指導すると、子供たちは真剣な表情で声を張り上げていた。

練習後、小学3年の淡路椋子さん(8)は「歌は大好きだけど、オペラは初めて。きれいで大きな声が出るように特訓して、多くの人に

見に来てもらいたい」と話していた。

6月17日午後5時開演。観客席は砂川裕さん、演出は杉理一さん。墨田区、販売・日本テレビ文化センターなど後援。全席指定でチケットの問い合わせは、オフィス・アプローズ(03-3612-1318)へ。